

愛知県(県域)

1 産地の概要

<対象品目>施設トマト類

<産地の現状・課題>

愛知県の施設トマト類産地では、環境モニタリング装置を取り入れた環境制御技術の確立を県域的な課題として取り組み、各産地において増収を実現してきた。近年は、みどりの食料システム戦略や消費者志向の変化を受けて、環境に配慮した病害虫の防除体系の確立に向けた機運が高まっている。

そこで、灰色かび病やコナジラミ類の薬剤に対する耐性獲得情報による適切な薬剤選定、ハウス内環境測定による灰色かび病発生リスク解析を参考とした防除、生物農薬等の活用によるコナジラミ類の防除を検証し、県全体のトマト産地の化学農薬低減と軽労化等の省力化を図る。

2 検討体制

<愛知県組織と関係機関等の役割>

- ・ 農業経営課(事務局)
- ・ 農業革新支援センター(事業のコーディネート、検討会の開催、ローテーション防除と産地戦略の作成、技術指導)
- ・ 普及指導センター(JA及び農業者との調整、実証ほの進行管理、技術指導)
- ・ 農業者(実証ほの栽培管理、技術の検証)
- ・ JA(農業者との調整、技術指導、調査補助)
- ・ JAあいち経済連(資材情報等の提供、研究会への参加、コナジラミ類の薬剤抵抗性検査の実施)
- ・ IT工房z(株)(ハウス内環境データの測定、灰色カビ病発生リスクの解析)

3 グリーンな栽培体系

<環境にやさしい栽培技術>

取組項目	作業段階	新たに取り入れる技術
化学農薬の成分使用回数の低減および薬剤散布回数の削減	病害虫管理	<取り入れる技術> 灰色かび病の耐性菌発生状況調査および薬剤感受性検定による適切な薬剤選定、発生リスク解析に対応した防除、生物農薬の施用によるコナジラミ類の防除
		<見込まれる効果> 化学農薬の成分使用回数の低減

<省力化に資する技術>

作業段階	新たに取り入れる技術
病害虫管理	<取り入れる技術> 灰色かび病の耐性菌発生状況調査および薬剤感受性検定による適切な薬剤選定、発生リスク解析に対応した防除、タバココナジラミバイオタイプQ薬剤抵抗性発達程度に基づいた、効果的な農薬の選定、生物農薬のダクト内施用
	<見込まれる効果> 農薬散布作業の削減

4 活動内容(予定)

<活動内容>

- ・ 実証データ、進捗状況の検討および事業実施地域以外での検討
- ・ 先進的な研究、農業資材、産地の現状を調査し実証に活用
- ・ 研究会等での取組内容に関する周知